

げんき カエル

こども病院
ニュースレター



平成 27年(2015) 4月1日

よくお願いします(そして、治す・見守る・つなぐ)



副院長・小児外科部長
前田 貢作



昨年の4月より、西島栄治副院長の後任として赴任しました前田です。栃木県にある自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科より異動して、1年を迎える事になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

新病院の移転整備が本格化してきましたこの時期に、新病院担当副院長としてその責務の大きさを痛感している毎日です。

私は1979年に神戸大学医学部を卒業以来、35年間小児医療に専従してきました。この間、愛仁会高槻病院小児外科、米国カリフォルニア大学小児外科、神戸大学病院小児外科、自治医科大学小児外科において小児外科の診療、研究、教育を担当してきました。我が国で最も多い手術実績を持つ小児外科医の一人として、お子様を安心して預けていただけると確信しております。前任の西島副院長とは神戸大学外科の同期で、今までにも研究や診療に連携をとってきましたので、こちらへ赴任しても違和感なく仕事できています。

こども病院の医療レベルは全国的に見ても非常に高いものです。病気を治すことについては、今の医療水準が維持できれば患者様のご期待に添えることは間違いがありません。しかしながら、小児医療はそれだけではなく、子供達の成長を見守っていくこと、近年注目されている成人期への移行につなげることが以前にも増して重要となってきています。

このような課題が山積する中で、新しい病院への移転に向けて、今年はこども病院にとっても特別な1年になります。未来に向かって大きく成長していくこども達に、私たちが提供できる医療には決まったことなど何もありません。院内の多職種の職員の方々と連携して、一人一人の患者さんにベストを尽くすこと、前例がなければ新しく作ればよいと考えることで、一層の発展を目指します。私のモットーである、「楽しく、しかし厳しく仕事ができる」環境を作っていけるよう努力したいと思います。

こども病院は、多くの方々のご支援を得ることにより、初めてその力を発揮することができます。新しい病院に向けて、引き続きご支援いただけますよう、よろしくお願いいたします。





新しい小児慢性特定疾病医療費助成制度について

医事企画課長 山上 美和

児童福祉法の改正に伴い、平成27年1月1日から新たな小児慢性特定疾病医療助成制度が始まりました。

大きな変更点は以下の3点です。

1 月額自己負担限度額の金額・算定方法

改正前	改正後
500円未満の自己負担額 500円以上の自己負担額	1ヶ月間の自己負担額 (国民健康保険)
入院料の全額 患者負担の割合 算定対象の税金 算定上の所得者 算定対象の世帯	含まれる 月額自己負担額に 2割 市町村民税の所得割 全額 健康保険上の世帯
3割(自営学費は2割) 所得税	市町村民税の所得割

その他、重症認定患者や人工呼吸器等装着等の自己負担等に変更があります。

2 指定医療機関・指定医の指定

改正以前はいずれの医療機関等でも医療費の助成対象となっていたが、改正後は都道府県等(保健所政令市の場合は保健所政令市)が指定した医療機関等のみが医療費助成の対象となります。

また、医療意見書を記載できることのできる医師についても、都道府県等が指定した指定医のみとなっています。

指定医療機関と指定医は、都道府県等のホームページで公開されています。



3 医療費助成の対象疾病の拡大

改正前[11疾患群514疾病]から[14疾患群704疾病]に拡充されました。

大分類	中分類	小分類
1 悪性新生物 (白血病 骨髄異形成症候群 リンパ腫等)	6疾患	91分類
2 慢性腎疾患 (ネフローゼ症候群 慢性糸球体腎炎等)	20疾患	46分類
3 慢性呼吸器疾患 (気道狭窄 気管支炎等 先天性横隔膜ヘルニア等)	12疾患	14分類
4 慢性心疾患 (QT延長症候群 心房内隔欠損症 肺動脈性肺高血圧症等)	65疾患	97分類
5 内分泌疾患 (下垂体機能低下症 成長ホルモン分泌不全性低身長症等)	43疾患	95分類
6 膠原病 (血管炎症候群 スティーブンス・ジョンソン症候群等)	6疾患	25分類
7 糖尿病 (糖尿病)	1疾患	7分類
8 先天性代謝異常 (ミトコンドリア病 脂質代謝異常等)	15疾患	141分類
9 血液疾患 (血小板減少性紫斑病 カサバハ・メリット症候群等)	28疾患	54分類
10 免疫疾患 (慢性活動性EBウイルス感染症 後天性免疫不全症等)	11疾患	56分類
11 神経・筋疾患 (頭蓋骨縫合早期癒着症 もやもや病等)	30疾患	65分類
12 慢性消化器疾患 (先天性吸収不全症 ヒルシュスブルグ病および閉鎖疾患等)	24疾患	39分類
13 染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群 (染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群等)	1疾患	19分類
14 皮膚疾患 (レックリングハウゼン病 (神経線維腫症Ⅰ型)等)	6疾患	11分類

なお、詳しい制度内容は、居住地担当窓口(神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市においては市担当窓口、その他の市町においては兵庫県健康福祉事務所)にお問い合わせください。



麻酔科のお仕事紹介と QandA 麻酔科部長 高辻 小枝子

麻酔科は、患者様が安全かつ快適に手術や処置を受けていただけるように、麻酔を行うことが主な仕事です。当院ではお子様に対しては体表の小さい手術から心臓、消化器、脳といった内臓の大きな手術、また妊婦の方には帝王切開など、様々な手術とそれに対する麻酔が行われています。また小児ではじっとしていることができないため、検査や簡単な処置でも全身麻酔が必要となることがしばしばあります。現在麻酔科医16名で、手術室・日帰り手術棟・病棟・検査室など様々な場所で、緊急手術を含めて24時間体制で、年間4000件を超える麻酔を行っています。

Q:麻酔は本当に安全なのですか？

A:こんなに小さい子に麻酔をかけて大丈夫ですか？とか、何回も麻酔をして大丈夫ですか？という質問をよく受けます。医療は不確実な点があり、確かに100%安全とは申し上げられません。純粋に麻酔によって予期しない後遺症や死亡に至る確率は約10万例に1例、飛行機事故に遭遇するくらいの確率とされています。このため安全な手術・麻酔のために、手術の前には麻酔科医の診察を受けていただいて、安全に麻酔を受けることができるかどうかを評価します。また、麻酔の危険性や副作用について説明させていただきます。麻酔中は麻酔科医がずっとそばにいて、体の各臓器が正常に機能しているかを監視しています。最近話題のプロポフォールですが、麻酔薬としては覚醒が早い、嘔気が少ないなどの利点も多いので当院では用法・用量を守って使用しています。

Q:手術に向けて準備しておくことはありますか？

A:お子様が手術を受けることが決まったら、まずは保護者の方が手術や麻酔について理解していただいた上で保護者の方からお子様を理解できるようにお話をさせていただくとよいでしょう。風邪をひいていたり、喘息発作が出ている状態では、手術中に呼吸が苦しくなったり酸素が通常以上に必要になる可能性が高まりますので、できるだけ体調を整えておくことも大事です。当院、あるいは小児麻酔学会のホームページを参考にさせていただくか、遠慮なく医師や看護師にご相談ください。

麻酔科医一同、安全で痛くない麻酔を心がけています。手術前後を中心にお目にかかることが多いと思いますが、それ以外でもいつでも気軽に声をかけてください。





新生児搬送用ドクターカーについて

新生児科部長 芳本 誠司

周産期医療センターでは2014年12月に、3代目新生児搬送用ドクターカーが配備されました。新生児科医師、看護師が同乗して新生児を搬送します。従来の当院救急車は各科との共用であったため使用できない場合もありましたが、今後は新生児搬送専用となりますので、より迅速な対応が可能となります。本救急車の特徴としては新生児収容と同時に適切な処置が開始できるように、マイクロバスを改造して通常の姿勢で処置がおこなえるスペースを確保しました。また、新生児用人工呼吸器、血液ガス分析器を搭載し、さらに日本で初めて一酸化窒素吸入装置も設置可能な

構造としました。これにより、重篤な新生児をより安全に治療を継続しながら当センターに搬送することが可能となります。なお、本救急車は大規模災害発生時にはDMATカーとしても運用することにもなっています。



Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

- **基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親と子どもが一体となった治療の推進
 6. 子どもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

多くの方が、卒業、入学、就職など、人生の大きな節目を迎えられる季節がやってきました。げんきガエルも平成15年の創刊から10年をひとまわりし、また新たな気持ちでみなさんに情報をお届けしていきたいと思えます。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：田中亮二郎 中村誠子

内海祐子 井手敦子

阪部真吾 赤松規子

山根隆也 北川加奈美

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター
小児がん医療センター 小児心臓センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL 078-732-6961
FAX 078-735-0910 (総務課)
FAX 078-732-6980 (予約センター)
URL <http://www.hyogo-kojho-hosp.com/>
E-mail: info_kochihp.prof.hyogo.jp